2023 年 5 月 16 日

Venture Solution

コラム記事

昨今、より顧客属性に合わせたサービス提供のために、会員専用サイトをリリースする企業も多くあるかと思います。
会員専用サイトには、重要な顧客情報が含まれている場合も多く、各社セキュリティ対策を強化されています。
そんな中で、サイト内一部の脆弱性からの不正アクセスによる個人情報流出の記事が掲載されておりましたので、
ご紹介いたします。

四国ガス会員サイトに不正アクセス　流出はメールアドレス約２万件【愛媛】

（EBC NEWS 2023/5/16(火) 14：40 配信 より引用）
四国ガスは１５日、会員サイトのサーバーに不正アクセスを受け流出した個人情報は、顧客のメールアドレス約２万件だったと公表しました。

四国ガスによりますと、５月１日に会員サイト「ガポタ」に不正アクセスを受け調査を開始。この結果、４月２８日と２９日の２日間に登録している利用者のメールアドレス約２万件が流出したことが判明しました。名前や住所、口座情報などは流出してないとしています。

原因はサイトの管理運営の委託先でセキュリティ対策に取り組んでいたものの、一部のサイトの脆弱な部分に不正アクセスされたということです。

四国ガスは、セキュリティ対策を講じ安全が確認されたとしてサイトを１５日に再開。
「関係者に多大なる迷惑と心配をかけ重ねてお詫びする。全社一丸で再発防止に取り組み、信頼の回復に努める」としています。

テレビニュースや新聞記事などで、日々セキュリティ対策強化の注意喚起はされておりますが、
不正アクセスによる個人情報の流出報告は後を絶ちません。
特にセキュリティ犯罪においては、変化が激しく対応が後手に回ってしまいがちですが、常に新しい情報を収集して
万全のセキュリティ対策を講じる事が必要だと感じております。